



ショウジョウバカマ

飯山市農業をめぐる最近の動きから

米の生産調整 確実な実施へ

米の需要量が年々減少する中、19年度の米価が下落し農業経営が危ぶまれる事態になっています。国では20年産米に過剰作付けを無くすように全力で取り組むとしています。

そのため、今年度は国・県・市・水田農業推進協議会・JA等が合同で飯山市内全水田の全筆現地調査を6月から7月にかけて実施することになりました。

その結果により、配分を超えた作付けが確認された生産者は、青刈りや飼料米等による事後対応をしていただくことになりました。

したがって、生産者は配分通知に記載された面積以内による水稲作付けや、調整水田については水張りな

どの確実な実施が必要となります。

農地・水・環境保全向上対策の組織数が県下最多に

農地や農業用水の保全管理が困難な状況になってきたことや農業生産における環境保全の重要性が高まってきました。

このため、本対策事業により地域ぐるみによる農地や農業用水などの保全を行う共同活動への支援が行われています。

長野県では19年度に48市町村、266活動組織が事業を開始しており、その内、飯山市では23地区で活動組織化され県下トップの数であり、約2千8百万円が交付されました。また今年度にも市内で数地区が新たに取り組みを開始しま

す。
市内各地区では用水路の泥上げや草刈り、ため池の点検、農道沿いの草花の植栽、メダカやホタルの保護などの生態系の保全活動などに取り組んでいます。

水田経営所得安定対策として再スタート

19年度にスタートした「品目横断的経営安定対策」が、地域水田農業ビジョンに位置づけられた認定農業者の方は、市町村特認により従来の面積要件（4ha）を満たしていなくても加入できたり、申請書類もより簡単になるなど「より分かりやすく」、「より入りやすい制度」を目指して、「水田経営所得安定対策」として再スタートを切りました。

なお、19年度の飯山市内の加入者数17件に対して、米価下落による収入減少補てん対策の交付金が支給される予定です。

遊休農地対策 「こつたち菜摘み」

4月18日に農業委員により常盤堤防の堤外地でとうたち菜摘みを行いました。約2haの面積に前年の秋口に野沢菜の種をまいておいたもので、摘んだ後は菜の花のじゅうたんになります。

数年前から遊休農地対策として不耕作地を活用し取り組んでいるものです。



下限面積の変更について

5年ごとに実施される農林業センサス調査の2005年度の結果に基づき、飯山市内一部地区の下限面積（別段面積）が、4月1日より下表の通り変更となりました。

地区名 (旧町村単位)	下限面積 単位：a (アール)
旧飯山町	※20
旧秋津村	30
旧柳原村	50
旧外様村	50
旧常盤村	50
旧太田村	40
旧岡山村	40
旧瑞穂村	※30
旧木島村	50

※旧飯山町の変更前面積は30アール
※旧瑞穂村の変更前面積は40アール

注 意 次の行為には 許可が必要です

- ◎ 農地を耕作する目的で売買・貸借する場合（農地法第3条許可）
- ◎ 自分の農地を農地以外に転用する場合（農地法第4条許可）
- ◎ 自分の農地を第三者が転用するために売買・貸借する場合（農地法第5条許可）

- ☆ 申請の締切日
毎月15日。15日が土日祝日の場合は直前の開庁日が締切日
- ☆ 申請書の提出先
農業委員会



春の山菜 こごみ

あぜ道だより



農業委員 丸山 花子
(瑞穂地区)

遊休農地に ダツタンソバを！

が がんばってます！ — No.26 —

異常気象にも負けないトマトを！



たくろう りえ
伊東 拓郎・理恵さん ご夫婦
天神堂（木島）

今、お父さんと一緒に取り組んでいるのが、このところの異常気象にも負けないトマトづくりで、麦、大豆等を作付して連作障害を防止したり、堆肥の施肥量を調整して土壌改良を行い、より高い省力化・収益性を追求しているとのことでした。

趣味とする野球は少年野球の頃からのもので、近頃は農業が忙しく、なかなか参加できないと少し寂しそうでしたが、トマトの収穫前に仲良し家族みんなで海に行くのが楽しみですと話してくれました。

先日、知人が我が家で一杯やっている際に「どうだい、今年ダツタンソバっていうものを蒔いてみないかい。」とのお話。お茶などにも同じ名前があり、聞いたことはあるが、「遊んでいる所に蒔いてみないかい、割合に収穫もあるし、どこでもいいんだ！」という。

ここ数年、ソバに関しての話題が多くなり、瑞穂公民館でもソバ打ち道場なるものを開校し楽しんでいる。そんな話の2、3日後、信濃毎日新聞に、「ダツタンソバ」を信州大学農学部と伊那市、タカノ（宮田村）が共同で特産化に取り組む・・・という記事が載っていた。

この品種は中国やネパールで栽培されていて、国産ソバとの違いは「虫が付きにくく雑草を抑え、収量も多く、なぜか獣害も少ない。」とのこと、それを中山間地の遊休農地を利用して栽培していくという。いままであちこちに散在する遊休農地を活用するには至らず、常々問題にしている解決策がない中、うれしい記事であった。

その後当方でも数人が集まり、早速ソバづくりをやってみようと一致し、休んでいる畑を探しはじめ、とりあえず種蒔きの時期だけは決定したらしい。

畑起こしから始まり粉になるまでの作業工程はいろいろあつても、最後の大きな目標のために、その都度研究し楽しんでいけそう。人が集えば笑顔が生まれる、話の中に夢が湧く、そんな中から確かなものが育ってくる。元気探しの場であつたり、地域が好きになる時でもある。傍で聞いているだけではなく、興味を持って観察し楽しい結果を報告できたらいいと思っている。